

第 28 回 地域福祉実践研究セミナー in さが

開催要綱

[テーマ]

地域でともに生きていくために、未来に向かって、もう一度つながる
～社会福祉協議会を中核とした地域づくりを目指して～

1.開催趣旨

数年に亘る「新型コロナウイルス感染症」が引き起こした社会への影響は、全国的に虐待や DV、子どもの自殺者の数が過去最高を記録する等、深刻さを増している。「繋がる」ことを止められ、分断された社会の中で、「孤立」・「孤独」を感じながら生活の困りごとを抱えたまま暮らしていた方も少なくなく、「ウィズコロナ」、「アフターコロナ」と言われる現在であっても、その影響はまだまだ色濃く残っている。

一方、国においては、地域共生社会の実現に向けて、包括的な支援体制の整備や多種多様な関係機関等の参加・協働による支援の仕組みの構築等が推進されており、令和 3 年 4 月からは、市町村において「相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する「重層的支援体制整備事業」の取り組みも開始された。

このような地域共生社会の実現に向けた仕組みづくりは、これまで社会福祉協議会(以下「社協」)が長年にわたって取り組んできた方向性と合致するものではあるが、多様な支援機関が確立してきた現状においてはこうした仕組みづくりの担い手は社協に限定されるものではない。併せて、社会福祉法の改正により、地域福祉計画が上位計画化し、かつ地域生活課題を明らかにすることや住民参加が標榜されたが、このことは必ずしも社協の「追い風」にはならない。

地域福祉がメインストリームとなった中、社協は地域福祉推進の中核組織になり、社会的評価を真に得られるであろうか。佐賀県社協が全国に先駆けて課題提起した“社協は生き残れるか”。その解(こたえ)は、地域住民のニーズ対応型実践でしかない。

今回のセミナーの舞台となる佐賀県は、九州の北西部に位置し、北は玄海国定公園に指定された風光明媚な海岸線を誇る玄界灘に面し、南には最大干満差 6m の広大な干潟の広がる有明海に接した肥沃な佐賀平野が広がる、農業や水産業が盛んな県である。また、九州の高速道路や鉄道の縦のライン(福岡～鹿児島)と横のライン(長崎～大分)がクロスする交通の要衝として地理的にも恵まれている上、県内 20 の市町間はいずれも片道 2 時間以内で行けるなど、とてもコンパクトでつながりやすい県でもある。

本セミナーは、全国各地の地域福祉関係者が一堂に会し、地域福祉や社協を取り巻く現状と課題を正しく理解し共有するとともに、県内各地における社協や CSO 等多様な立場からの実践発表をもとに全員参加型での研究討議を行うことを通し、地域住民、社協、CSO、行政、専門職や企業等、地域福祉関係者全体が、「もう一度つながる」ことを意識した地域福祉実践の展開を図ることを目的に開催する。

*CSOとは、「Civil Society Organizations(市民社会組織)」の略で、佐賀県では、NPO 法人、市民活動・ボランティア団体に限らず、自治会・町内会、婦人会、老人会、PTA といった組織・団体を含めて「CSO」と呼称しています。

本セミナーの特徴

- ▶ 地域福祉に関わる様々な分野の実践者が住民とともに交流し討議することを通して、今後の地域福祉の実践に新たな見通しを拓きます。
- ▶ 地域福祉の先駆的な実践現場に集い、現場の実践を分析することによる臨場感に富んだ研修の場を提供します。
- ▶ 各分野のワークショップでは、コミュニティソーシャルワークを中心とし、参加者自身が課題を明らかにし、その課題解決の方策をアドバイザーとともに考察し、企画力・実践力の向上を図ります。
- ▶ ワorkshopの達成課題を明らかにし、全体フィードバックでのプレゼンテーション・総括を通して、コミュニティソーシャルワーク・スキルの向上を図ります。
- ▶ 地域福祉の分析及び課題解決の企画を通して、新しいトータルケアシステムとしての地域福祉構築とその実践方法としてのコミュニティソーシャルワークのあり方を探ります。

2.期日 令和 5 年 8 月 24 日(木)～26 日(土)

3.会場 [1 日目・3 日目]アバンセホール(佐賀市)

佐賀市天神三丁目 2-11(どんどんの森内)

[2 日目]

鳥栖市、みやき町、鹿島市、太良町、武雄市、佐賀市内各会場

- 4.主催 第28回地域福祉実践研究セミナー実行委員会
特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所
- 5.共催 社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会 / 佐賀県市町社協職員連絡協議会
認定特定非営利活動法人 スチューデント・サポート・フェイス
公益財団法人 佐賀未来創造基金 / 公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
佐賀県民生委員児童委員協議会 / 佐賀県社会福祉法人経営者協議会
西九州大学 / 佐賀県 / 日本地域福祉学会 九州・沖縄部会
佐賀市社会福祉協議会 / 鳥栖市社会福祉協議会 / 武雄市社会福祉協議会
鹿島市社会福祉協議会 / みやき町社会福祉協議会 / 太良町社会福祉協議会
唐津市社会福祉協議会 / 多久市社会福祉協議会 / 伊万里市社会福祉協議会
小城市社会福祉協議会 / 嬉野市社会福祉協議会 / 神崎市社会福祉協議会
吉野ヶ里町社会福祉協議会 / 基山町社会福祉協議会 / 上峰町社会福祉協議会
玄海町社会福祉協議会 / 有田町社会福祉協議会 / 大町町社会福祉協議会
江北町社会福祉協議会 / 白石町社会福祉協議会
- 6.後援 佐賀市 / 鳥栖市 / 武雄市 / 鹿島市 / みやき町 / 太良町
唐津市 / 多久市 / 伊万里市 / 小城市 / 嬉野市 / 神崎市 / 吉野ヶ里町
基山町 / 上峰町 / 玄海町 / 有田町 / 大町町 / 江北町 / 白石町
- 7.助成 公益財団法人 佐賀県地域福祉振興基金
- 8.参加対象者 社会福祉協議会役職員、社会福祉法人・NPO 法人役職員、行政職員、
民生委員・児童委員、学校関係者、地域保健・医療関係者、福祉を学ぶ学生、
その他地域福祉に関心のある方 300名程度

9.日程・内容 (所属・役職は令和5年6月1日現在です)

1日目:8月24日(木)

- 12:00~13:00 受付
13:00~13:20 開会式典
・主催者あいさつ 特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所
・歓迎あいさつ 社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会 会長 陣内 芳博
・来賓あいさつ 佐賀県知事 山口 祥義 様
13:20~14:20 基調講演 「未来に向かって、もういちど、つながる
～地域(ここ)で今何が起きているか～」
講師:認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス
代表理事 谷口 仁史 氏

数年に亘る「新型コロナウイルス感染症」が引き起こした社会への影響とは。全国的に虐待やDV、子どもの自殺者の数が過去最高を記録する等深刻さを増している中、「繋がること」を止められ、分断された社会の中で、「孤立」し「孤独」を感じながら生活の困りごとを抱えたまま暮らしている方も少なくありません。本セミナーの開始にあたり、現状や課題についての共通認識を図ります。

- 14:20~14:30 休憩
14:30~17:00 シンポジウム 「未来に向かって、もういちど、つながる
～地域(ここ)でつながるために～」
[コーディネーター] 日本地域福祉研究所 理事長 大橋 謙策 氏
[シンポジスト]
◆佐賀県 健康福祉部 社会福祉課 課長 三浦 正樹 氏
◆(認定特非)スチューデント・サポート・フェイス 代表理事 谷口 仁史 氏
◆(福)佐賀西部コロニー多良岳福祉園 施設長 中尾 富嗣 氏
◆(福)佐賀市社会福祉協議会 事務局次長 池田 敦子 氏

地域を取り巻く課題の解決に向けて、佐賀県内の行政・社協・NPO・社会福祉法人はどのような取組を行っているのか。各機関・団体等からの報告を踏まえ、より一層効果的な取組とするための「繋がりづくり」、「協働の視点」等について協議します。

- 18:00~20:00 情報交換会 / グランデはがくれ
佐賀市天神2丁目1-36 / 0952-25-2212

2日目:8月25日(金)

*佐賀駅周辺から各分科会会場(第6・7分科会除く)までマイクロバス等にて送迎します。

- 9:30~10:00 受付
- 10:00~16:30 分科会(4ページ以降参照)
県内7カ所を会場に、テーマ別に各地域における実践を報告いただきます。
それを踏まえ、参加者全員で、「自分の地域でできること」等話し合い、共有することを目的にワークショップを行います。

3日目:8月26日(土)

- 9:15~9:45 受付
- 9:45~12:15 シンポジウム(分科会報告含む)
「佐賀県の実践に何を学び、何を提言するかを考える」
[コーディネーター]日本地域福祉研究所 理事長 大橋 謙策 氏
[シンポジスト]第1~6分科会 日本地域福祉研究所所属アドバイザー
香川県社会福祉協議会 事務局長 日下 直和 氏
西九州大学 健康福祉学部 学部長 教授 黒田 研二 氏
佐賀県社会福祉協議会 まちづくり課 副課長 小松 美佳
- 12:20~12:30 閉会式

10.参加費

- セミナー参加費(3日間) 6,000円 (高校生・大学生は2,000円)
*うち1日のみ参加の場合 2,500円 (高校生・大学生は1,000円)
- [1日目]情報交換会参加費 6,000円 (希望者のみ)
- [2日目]昼食(弁当・お茶付き) 800円 (希望者のみ)

*後日、参加券と併せて請求書を送付しますので、期日までにお振込みください。

11.参加申し込みについて

令和5年7月28日(金)までに、下記参加申込フォームから申し込みください。

*申込フォームからのキャンセル・修正はできませんので、下記お問い合わせ先にお電話ください。
また、参加費納入後のキャンセルによる参加費等の返金はいたしかねますので予めご了承ください。

[申込フォーム]

<https://e38bd7b6.form.kintoneapp.com/public/saga2023>



12.宿泊のご案内

宿泊の手配は別添「宿泊お申込みのご案内」により承ります。セミナー参加申し込みとは別にお申し込みが必要となりますのでご注意ください。

[宿泊申し込みサイト] <http://www.mwt-mice.com/events/jissen28saga>

[宿泊に関するお問い合わせ先] 名鉄観光(株)佐賀支店(担当:対馬(つしま)様)

佐賀市駅前中央1-5-10 / TEL:0952-22-9601



13.お問い合わせ先

第28回地域福祉実践研究セミナー実行委員会 事務局

社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会 まちづくり課(担当:小松・山本・野田・山口)

(R5.7.17まで)〒840-0021 佐賀市鬼丸町7番18号

(R5.7.18から)〒840-0815 佐賀市天神1丁目4番15号

TEL:0952-23-2145 / E-mail:chiiki@sagaken-shakyo.or.jp

事務所移転のため7月18日から住所が変わります。
電話番号・メールアドレスは変わりません。

第1分科会 ひきこもり支援 × 地域	
テーマ	～ さがす♡つながる♡みらい～
会場	鳥栖市 / 鳥栖市社会福祉会館
ねらい	<p>今、ひきこもり当事者は全国で約100万人と言われています。ひきこもりの状態にある方やその家族は、それぞれ異なる経緯や事情を抱え、生きづらさと孤立の中で日々葛藤されているということに、想いを寄せ、寄り添う支援が求められます。</p> <p>ここでは、ひきこもり支援に取り組む社協や企業と、ひきこもり経験者からの実践報告をもとに、それぞれの立場の参加者がひきこもりの過程や実態について、ともに学びあうことで、“ひきこもり”についての正しい理解を深め、求められるひきこもり支援について共有・共感できる地域づくりについて考えます。</p>
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ●ひきこもり支援と社会関係の構築 ●当事者の気持ちに寄り添う
実践報告者	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)サガン・ドリームス 営業本部 社会連携担当 井上 裕介 氏 ●ひきこもり経験者 森 優真 氏 ●鳥栖市社会福祉協議会 主事 山下 真琴 氏
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ●日本地域福祉研究所 / 日本医療大学 通信教育部 部長 教授 田中 英樹 氏 ●認定特定非営利活動法人 スチューデント・サポート・フェイス 臨床心理士 数山 和己 氏
プログラム (予定)	<p>9:30～10:00 受付</p> <p>10:00～10:15 開会・オリエンテーション・アイスブレイク</p> <p>10:15～10:30 趣旨説明</p> <p>10:30～12:00 実践報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ①鳥栖市社協 社協が取り組むひきこもり支援について ②サガン・ドリームス 企業が地域の仲間として取り組む活動について ③森 優真 氏 ひきこもりを経験して <p>12:00～13:00 休憩・昼食(会場周辺に食事処・コンビニエンスストア等有り)</p> <p>13:00～15:25 グループワークⅠ</p> <p>「事例をもとに私たちができるひきこもり支援を考えよう」 具体的な事例をアプローチの段階からステージを分けながら紹介し、「私たちに何ができるか」を様々な立場の皆さんとともに考えていきます</p> <p>15:25～15:35 休憩</p> <p>15:35～16:15 グループワークⅡ「リフレクション」 一日の学びのふりかえりを共有します</p> <p>16:15～16:30 まとめ</p> <p>16:30 閉会</p> <p>17:00 佐賀駅行き シャトルバス出発</p>

第2分科会 福祉教育・人財育成 × 地域

テーマ	みんなが暮らしやすい地域って何？
会場	みやき町 / みやき町コミュニティーセンター こすもす館
ねらい	<p>国が掲げる「地域共生社会」は、制度や施策があればすぐに実現できるというのではなく、地域住民の一人ひとりが地域に関心を持ち、「排除しない」、「ともに生きる」という意識や行動が、地域の中で共有されることが必要とされています。</p> <p>ここでは、社協・学校・NPO・地域住民（ボランティア）、さらには次世代の“人財”となり得る高校生等が、地域と繋がりながら取り組む様々な活動について、高校生や大学生も含め、様々な立場の参加者がともに学びあうことで、子どもから高齢者まで地域住民の誰もが主体的に活躍できる地域づくりについて考えます。</p>
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ●地域生活課題 ●福祉や地域に意識を持つ人 ●人と地域のつながりを考える
実践報告者	<ul style="list-style-type: none"> ●みやき町ボランティア 御領原 美代子 氏 + みやき町社会福祉協議会 ●県立神埼清明高校 教諭 原 慶介 氏 + 生徒 ●NPO 法人 KARATSU 代表 生駒 明子 氏 + 県立唐津西高校 生徒 ●NPO 法人 WeD 代表 吉森 旭希 氏 + 高校生
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ●日本地域福祉研究所 / 日本福祉大学 学長 原田 正樹 氏 ●西九州大学 副学長 上野 景三 氏
プログラム (予定)	<p>9:30~10:00 受付</p> <p>10:00~10:10 開会・オリエンテーション・アイスブレイク</p> <p>10:10~10:15 趣旨説明</p> <p>10:15~11:20 実践報告「地域人財と地域活動への展開」 みやき町ボランティア・みやき町社会福祉協議会</p> <p>11:20~12:15 グループワークⅠ「実践報告から学びを深める」</p> <p>12:15~13:15 休憩・昼食(会場周辺に食事処無し・最寄りのコンビニ徒歩15分) 「お蕎麦打ち隊」(吉野ヶ里町)・「蕎麦打ちおやじの会」 (みやき町)による「蕎麦」と「うどん」のおもてなし有</p> <p>13:15~15:25 シンポジウム・全体セッション 「高校生の活動から見る人財育成・人財確保と地域福祉」 [登壇者] ①県立神埼清明高校 教諭 原 氏+高校生 ②NPO 法人 KARATSU 代表 生駒 氏+高校生 ③NPO 法人 WeD 代表 吉森 氏+高校生 [アドバイザー] 日本福祉大学 学長 原田 正樹 氏 [コーディネーター] 西九州大学 副学長 上野 景三 氏</p> <p>15:25~15:35 休憩</p> <p>15:35~16:15 グループワークⅡ「リフレクション」 一日の学びのふりかえりを共有します</p> <p>16:15~16:30 まとめ</p> <p>16:30 閉会</p> <p>17:00 佐賀駅行き シャトルバス出発</p>

注)お昼の「蕎麦」と「うどん」のおもてなしは昼食に“プラスα”の量とご理解ください。昼食は別途ご準備ください。

第3 分科会 生活困窮者支援 × 地域

テーマ	コロナが生んだつながり
会場	鹿島市 / 市民交流プラザ「かたらい」
ねらい	<p>新型コロナウイルスや不安定な社会情勢による物価高騰等により、経済的に困窮する方が増加すると同時に、感染拡大防止の観点から、以前のように“集まる”・“繋がる”取り組みが制限されたことにより、地域との関係が希薄化し、孤立し孤独感を抱える方も増加しました。一方で、社協を始めとする困窮者支援の関係機関等においては、緊急小口資金の貸付等を通し、今まで関われなかった方とつながるきっかけともなりました。</p> <p>ここでは、社協や社会福祉法人からの実践報告をもとに、それぞれの立場の参加者が様々な生活困窮者支援について、ともに学びあうことで、地域の中で生活困窮者等様々な課題を抱えた方々を取り残さないために求められる支援体制やつながりづくりについて考えます。</p>
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍で顕在化した“新たな貧困”への対応 ●地域での生活困窮者支援のシステムづくり ●生活困窮者支援体制を構築するためのプラットフォーム ●コロナ特例貸付で繋がった事例 ●個別支援と地域支援 ●一人ひとりに合わせた繋がり方
実践報告者	<ul style="list-style-type: none"> ●(福)佐賀整肢学園 救護施設 佐賀整肢学園・かんざき日の隈寮 施設長 大島 毅 氏 ●多久市社会福祉協議会 地域福祉課 係長 安藤 邦子 氏 ●鹿島市社会福祉協議会 地域支援係 係長 一ノ瀬 健 氏
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ●日本地域福祉研究所 / 日本社会事業大学 社会福祉学部福祉計画学科 教授 菱沼 幹男 氏 ●西九州大学 健康福祉学部 学部長 教授 黒田 研二 氏
プログラム (予定)	<p>9:30~10:00 受付</p> <p>10:00~10:10 開会・オリエンテーション・</p> <p>10:10~10:50 基調講演「生活困窮者を取り巻く現状 ~コロナ禍で顕在化した“新しい貧困”への対応~」(仮) 日本社会事業大学 教授 菱沼 幹男 氏</p> <p>10:50~12:00 実践報告</p> <p style="margin-left: 20px;">①多久市社協(地域での取組・発見のシステム)</p> <p style="margin-left: 20px;">②鹿島市社協(地域のNPO・民児協等との協働)</p> <p style="margin-left: 20px;">③佐賀整肢学園・かんざき日の隈寮(社福公益的取り組み)</p> <p>12:00~13:00 休憩・昼食(会場周辺に食事処・スーパー・コンビニ等有り)</p> <p>13:00~15:35 グループワーク「事例から求められる支援を考える」 *事例をもとに、個別支援と地域支援について「9 マスシート」を活用して参加者それぞれの視点を大切にしながらともに考えます [コーディネーター] 日本社会事業大学 教授 菱沼 幹男 氏 [アドバイザー] 西九州大学 教授 黒田 研二 氏</p> <p>15:35~15:45 休憩</p> <p>15:45~16:15 グループワークⅡ「リフレクション」 一日の学びのふりかえりを共有します</p> <p>16:15~16:30 まとめ</p> <p>16:30 閉会</p> <p>17:00 佐賀駅行き シャトルバス出発</p>

第4分科会 人口減少地域での担い手不足 × 地域

テーマ	“どがんかしゅう!”から始まる活動への促し方の工夫を考える
会場	太良町 / 総合福祉保健センター しおさい館
ねらい	<p>我が国の人口は2008年をピークに減少を転じ、今後もその傾向は急激なスピードで進むと言われています。特に地方においては、その状況がもたらす影響は大きく、生活関連サービスや行政サービスの縮小・廃止、商店等の廃業が進むなど地域の維持が困難となり、「この地域で安心して暮らしたい」という想いをもちながら生活することが難しくなるという課題に直面しています。</p> <p>ここでは、「将来、人口が減少し、地域の担い手が不足した場合の地域のあり方」にフォーカスし、それぞれの立場の参加者が、社協やCSO、地域の団体の実践報告をもとに、「住民の生活を守るため」の手段の一つである「住民自身が『どがんかしゅう(どうにかしよう)!』という思いから始まる活動の協働」に目を向け、住民自身が現状を受け入れ「自分たちの地域は自分たちでどがんかしゅう(どうにかしよう)!」といった意識の変革につながるような「促し方の工夫」についてともに学びあうことで、人口減少の地域でも「最後までここで暮らすことができる」を実現できる地域づくりについて考えます。</p>
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ● “自分ごと”として地域を考えてもらう ● 担い手減少の中で地域住民の生活を守る ● 地域住民一人ひとりが輝く地域づくり
実践報告者	<ul style="list-style-type: none"> ● (公財)佐賀未来創造基金 理事長 山田 健一郎 氏 ● 太良町社会福祉協議会 地域福祉係 主査 吉沢 宗典 氏 ● 多良岳を愛する会 代表 池田 清哉 氏
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本地域福祉研究所 / 法政大学 現代福祉学部 教授 宮城 孝 氏 ● 西九州大学 社会福祉学科 教授 井本 浩之 氏
プログラム (予定)	<p>9:30~10:00 受付</p> <p>10:00~10:05 開会・オリエンテーション</p> <p>10:05~10:25 基調講演「人口減少により地域が抱え得る将来の課題」(仮) 法政大学 現代福祉学部 教授 宮城 孝 氏</p> <p>10:25~10:40 課題提起「太良町の実態から考える」 太良町社会福祉協議会 地域福祉係 係長 江藤ケイ子氏</p> <p>10:40~10:50 休憩</p> <p>10:50~12:10 実践報告 「“どがんかしゅう!”から生まれた地域のコンテンツ」 ①佐賀未来創造基金 ②太良町社会福祉協議会 ③多良岳を愛する会</p> <p>12:10~13:00 休憩・昼食(会場周辺に食事処少ない・最寄りのコンビニ徒歩5分)</p> <p>13:00~15:35 グループワーク テーマ①「将来、人口減少が進んだ場合に、地域で何が起きるかを考える」 テーマ②「(太良町を例に)太良町に必要な自発的な活動について考える」</p> <p>15:35~15:45 休憩</p> <p>15:45~16:15 グループワークⅡ「リフレクション」 一日の学びのふりかえりを共有します</p> <p>16:15~16:30 まとめ</p> <p>16:30 閉会</p> <p>17:00 佐賀駅行き シャトルバス出発</p>

第5分科会 被災者支援 × 地域

テーマ	地域住民×CSO×行政×社協=∞(無限) 被災者をどう支えるか
会場	武雄市 / 武雄市文化会館ミーティングホール
ねらい	<p>近年、全国各地において災害が相次いで発生し、被災者支援においては、主に市町村社協が中心となって設置運営する災害ボランティアセンターを介したボランティア活動が不可欠なものとして広く認知されるようになりました。他方、被災者支援の在り方として、被災者一人ひとりの被災状況や生活状況の課題を「アウトリーチ」等による個別のアセスメントにより把握した上で、専門職や専門機関と連携して継続的に支援する「災害ケースマネジメント」や住民を始めとする地域資源とともに取り組む「災害コミュニティソーシャルワーク」が重要としてその具体的な展開についての検討も進められています。</p> <p>ここでは、過去に被災した武雄市と大町町でのCSO等による実践報告や基調講演をもとに、それぞれの立場の参加者が、被災された地域住民に寄り添った様々な生活復旧支援等についてともに学びあうことで、災害にも強い地域づくりを考えます。</p>
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ●被災者へのソーシャルワーク支援と「災害ボランティアセンター」 ●災害ボランティアセンターの運営だけではない被災者支援 ●復興期からの支援 ●住民主体の活動
実践報告者	<ul style="list-style-type: none"> ●大町町地域おこし協力隊・PublicGate 代表 公門 寛稀 氏 + 大町町主任児童委員 中島 千枝 氏 ●一般社団法人おもやい 代表 鈴木 隆太 氏 + (元)武雄市民生委員・児童委員 牛島 早百合 氏
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ●日本地域福祉研究所 / 文京学院大学 人間学部人間福祉学科 教授 中島 修 氏 ●一般社団法人 Wellbe Design 理事長 篠原 辰二 氏
プログラム (予定)	<p>9:10~ 9:40 施設見学「大町町災害支援拠点」 日本レスキュー協会佐賀支部大町拠点「MORE WAN」、大町町災害支援拠点「ソレイユ」、佐賀県社協ストックヤード</p> <p>9:40~10:00 移動</p> <p>10:00~10:30 受付</p> <p>10:30~10:40 開会・オリエンテーション</p> <p>10:40~10:50 趣旨説明</p> <p>10:50~12:30 実践報告 ①大町町での取り組みについて(公門氏・中島氏) ②武雄市での取り組みについて(鈴木氏・牛島氏)</p> <p>12:30~13:20 休憩・昼食(会場周辺に食事処有り・最寄りのコンビニ徒歩12分)</p> <p>13:20~14:10 基調講演 「被災者へのコミュニティソーシャルワーク支援を考える」 Wellbe Design 理事長 篠原 辰二 氏</p> <p>14:10~15:40 グループワークⅠ テーマ「私たちにできる今後の備えや課題を考える」</p> <p>15:40~15:45 休憩</p> <p>15:45~16:15 グループワークⅡ「リフレクション」 一日の学びのふりかえりを共有します</p> <p>16:15~16:30 まとめ</p> <p>16:30 閉会</p> <p>17:00 佐賀駅行き シャトルバス出発</p>

第6分科会 権利擁護支援 × 地域

テーマ	安心したその人らしい生活を地域で支える ～意思決定支援を通して～
会場	佐賀市 / 佐賀県在宅生活サポートセンター
ねらい	<p>認知症、知的障害その他精神上の障害があること等により日常生活に支障がある方たちを社会全体で支え合うことは喫緊の課題ですが、特に今後、一人暮らしの高齢者や障害者が増加することも見込まれており、その方たちの生活を地域で支えていくためには、成年後見制度や日常生活自立支援事業等、既存の制度だけでは充分ではなく、本人の意思を確認し、決定することの支援を中心として、日常の買い物やゴミ出し、移動から、医療や死後事務等に至るまで一人ひとりに合わせた様々な日常生活上の支援体制の確保が求められています。</p> <p>ここでは、社協や専門職団体からの報告をもとに、それぞれの立場の参加者が意思決定支援を中心とした様々な権利擁護支援の取り組みについて、ともに学ぶことで、誰もが安心して最期まで暮らせる地域づくりを考えます。</p>
キーワード	<p>●一人暮らし高齢者・障害者の終末期支援及び死後事務 ●仕組みづくり</p> <p>●権利擁護支援のニーズキャッチ ●意思決定支援 ●終活支援</p>
実践報告者	<p>●(公社)佐賀県社会福祉士会 相談一課 課長 弘田 崇人 氏</p> <p>●佐賀市社会福祉協議会 福祉課 主事 諸石 康敬 氏</p> <p>●有田町社会福祉協議会 地域福祉 主幹 山崎 浩久 氏</p>
アドバイザー	<p>●日本地域福祉研究所 / 琴平町社会福祉協議会 会長 越智 和子 氏</p> <p>●江越法律事務所 弁護士・社会福祉士 江越 正嘉 氏</p>
プログラム (予定)	<p>9:30～10:00 受付</p> <p>10:00～10:10 開会・オリエンテーション</p> <p>10:10～10:20 趣旨説明</p> <p>10:20～12:00 実践報告</p> <p style="padding-left: 20px;">①佐賀県社会福祉士会 「後見活動を通じた意思決定支援」</p> <p style="padding-left: 20px;">②佐賀市社会福祉協議会 「地域で孤立した人の支援を通じた意思決定支援」</p> <p style="padding-left: 20px;">③有田町社会福祉協議会 「終活支援事業を通じた意思決定支援」</p> <p>12:00～13:00 休憩・昼食(会場周辺に食事処・コンビニエンスストア等有り)</p> <p>13:00～13:40 講義「“意思決定支援”の理解」 講師:江越法律事務所 弁護士・社会福祉士 江越 正嘉 氏</p> <p>13:40～15:35 グループワークⅠ 「安心したその人らしい生活を地域で支えるために必要な“意思決定支援”とは」 事例をもとに意思決定支援を行うための課題やその解決方法等について協議します</p> <p>15:35～15:45 休憩</p> <p>15:45～16:15 グループワークⅡ「リフレクション」 一日の学びのふりかえりを共有します</p> <p>16:15～16:30 まとめ</p> <p>16:30 閉会 施設見学「在宅生活サポートセンター」(参加自由)</p>

第7分科会 社協改革 × 地域

テーマ	社会福祉協議会は地域福祉の中核組織になり得るか ～地域共生社会政策の中での社協の在り方を考える～
会場	佐賀市 / (新)佐賀県社会福祉会館
参加対象	社会福祉協議会の役員・基幹的役割を担う職員等
ねらい	<p>社会福祉法改正により、地域福祉計画が上位計画化しかつ地域生活課題を明らかにし、住民参加が標榜されたが、そのことは社協の「追い風」には必ずしもなりません。令和3年4月から始まった「重層的支援体制整備事業」も然りです。地域福祉がメインストリームとなった中、社協は中核組織になり、社会的評価を得られるのでしょうか。“社協は生き残れるか”。その解(こたえ)は住民のニーズ対応型実践でしかありません。</p> <p>ここでは、全国各地の社協や佐賀県内社協の実践についてのディスカッションを通して、社協を取り巻く現状と課題を正しく認識し、生き残りをかけてこれから求められる社協の在り方を考えます。</p>
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ●社協職員の人材育成と研修システム ●社協は生き残れるか ●社協経営の構造的分析と理事・評議員・監事の役割 ●社協改革 ●ニーズ対応型問題解決プログラム ●行政との契約の在り方
実践報告者	<ul style="list-style-type: none"> ●有田町社会福祉協議会 事務局長 岩永 千津 氏 ●多久市社会福祉協議会 地域福祉課 副課長 北島 暁 氏
コーディネーター 兼 アドバイザー	●日本地域福祉研究所 理事長 大橋 謙策 氏
プログラム (予定)	<p>9:30～10:00 受付</p> <p>10:00～10:05 開会・オリエンテーション</p> <p>10:05～12:00 基調シンポジウム 「社会福祉協議会は生き残れるか ～社協の経営分析・事業評価・CSW 機能・社会福祉法人の公益的取組・プラットフォーム～」 [コーディネーター] 日本地域福祉研究所 理事長 大橋 謙策 氏 [シンポジスト] 香川県社会福祉協議会 事務局長 日下 直和 氏 都城市社会福祉協議会 事務局長 大田 勝信 氏 氷見市社会福祉協議会 事務局次長 森脇 俊二 氏 全国社会福祉協議会 地域福祉部 生活福祉資金貸付事業支援室長 岡崎 貴志 氏 佐賀県社会福祉協議会 まちづくり課副課長 小松 美佳</p> <p>12:00～13:00 休憩・昼食(会場周辺に食事処・コンビニエンスストア等有り)</p> <p>13:00～14:00 実践分析①「有田町社協の取り組み」 登壇者(シンポジスト)とのディスカッション</p> <p>14:00～15:00 実践分析②「多久市社協の取り組み」 登壇者(シンポジスト)とのディスカッション</p> <p>15:00～15:10 休憩</p> <p>15:10～16:30 総括シンポジウム 「社協が地域福祉推進の中核的役割を担うために」 [コーディネーター・シンポジスト] 午前中と同じ</p> <p>16:30 閉会 施設見学「新・佐賀県社会福祉会館」(参加自由)</p>

〔会場のご案内〕



〔8月24日(木)・26日(土)〕 *無料駐車場有り

アバンセホール 佐賀市天神三丁目 2-11 (どんどんどの森内) TEL:0952-26-0011	「佐賀駅」南口 から徒歩約 10 分
--	-----------------------

〔8月25日(金)〕 *いずれの会場も無料駐車場有り(第1~5分科会は送迎バス有り)

第1分科会	鳥栖市社会福祉会館 鳥栖市元町 1228-1 TEL:0942-85-3555	佐賀市内から 送迎バスで約 50 分
第2分科会	みやき町コミュニティーセンター こすもす館 三養基郡みやき町大字東尾 6436-2 TEL:0942-89-1659	佐賀市内から 送迎バスで約 40 分
第3分科会	鹿島市民交流プラザ「かたらい」 鹿島市大字高津原 4326-1 TEL:0954-62-2447	佐賀市内から 送迎バスで約 50 分
第4分科会	太良町総合福祉保健センター しおさい館 藤津郡太良町大字多良 1-17 TEL:0954-67-0410	佐賀市内から 送迎バスで約 80 分
第5分科会	武雄市文化会館ミーティングホール 武雄市武雄町大字武雄 5538 番地 1 TEL:0954-23-5165	佐賀市内から 送迎バスで約 50 分
第6分科会	佐賀県在宅生活サポートセンター 佐賀市神野東2丁目 6 番 1 号 TEL:0952-30-2591	「佐賀駅」北口 から徒歩約 3 分
第7分科会	佐賀県社会福祉会館 佐賀市天神 1 丁目 4 番 15 号 TEL:0952-23-2145	「佐賀駅」南口 から徒歩約 15 分

(佐賀市内会場図)



[分科会会場への送迎バスについて]

8月25日(金)に開催する分科会会場(佐賀市内の第6・第7分科会は除く)へは、下記のとおり送迎バスを運行します。

- ①集合時間 令和5年8月25日(金) 8時00分 (時間厳守)
*最終出発時間 8時15分
- ②集合場所 アバンセ 北側駐車場
- ③留意点
 - ・集合場所への駐車はできません。
お車でお越しの場合は、必ず宿泊先ホテルや近隣の有料駐車場に駐車の上、徒歩で集合場所へお越してください。
 - ・乗車人数に限りがありますので、必ずお申し込みの際にバス利用の有無をお知らせください。
 - ・乗車予定の方が揃い次第出発します。最終出発時間までにお越しいただけない場合は、乗車できませんのでご注意ください。
 - ・佐賀市内への戻りのバスは、集合場所ではなく、佐賀駅前で降車いただきます。